

吉賀中だより

令和7年11月6日
吉賀町立吉賀中学校
(文責：城市)

令和7年度 学校教育目標

「自他を大切に、共に自らの可能性を広げる生徒の育成」

めざす生徒像

- 誠実な生徒 【誠実】
- 自ら行動できる生徒 【自主】
- 新たな表現のできる生徒【創造】
- 学び合い高め合う生徒 【連帯】

文化祭（11/1）を開催

11月1日（土）に、令和7年度文化祭を開催しました。前日の肌寒い雨から一転した天候に恵まれた中、文化祭を無事に行うことができました。当日はご多用の中、保護者の皆様、地域の皆様に多数お越しいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

今年度の文化祭のテーマは、「唯一無二～今しかできない青春を！！～」。

- ・文化祭に向けた準備に取り組む中で「協力する力」や「伝える力」を身につける。
- ・吉賀中の文化力と団結力を保護者や地域の方に見てもらう。
- ・自分たち自身が楽しみ、感動する最高の思い出をつくる。

というねらいのもと、新たなことへの果敢な挑戦をめざして、全校生徒が一人一人の役割をしっかりと果たしながらの素晴らしい文化祭になりました。

各学年の発表は、今年度の総合的な学習で体験的に学んだことやそれらを元にして考えたり感じたりしたことを、テーマを活かしながら所々笑いを盛り込んだ楽しい発表でした。いかにして自分たちの思いや考えを表現し伝えることができるのか、その学びの成果はいかがだったでしょうか？また1年生はまだ練習途中とは言え、とても勇壮な和太鼓演奏も披露してくれました。とても迫力もありました。今後更に練習を積み重ね、福祉体験学習などでお世話になった施設の方への演奏披露を11月21日に計画しています

生徒会企画は、事務局が練りに練った企画で縦割りグループでのクイズでした。進行も臨機応変に楽しく盛り上げてくれましたし、参加した全校生徒が楽しく考えて回答をしていました。

展示発表では、これまでの授業で制作した作品や体験学習のレポート、夏休みの課題作品などを展示しました。日頃からの生徒たちの学習の成果や足跡として微笑ましいものや目を見張るもの、なるほどなあと感心するものなど多様性のある素晴らしい展示でした。今年度から音楽科教員が非常勤となり、全校合唱は諦めざるを得ませんでした。生徒全員での手づくりの文化祭は、テーマの通り唯一無二のものとなりました。

保護者の皆様、地域の皆様、当日はお忙しい中ご来校いただきありがとうございます。今後も吉賀中生徒の頑張りを温かく見守ってください。



1年生発表エンディング



2年生発表エンディング



3年生発表エンディング



展示作品の一部です

藻谷浩介さんの講演会に参加しました

吉賀町って素敵な町ですよ

10月2日（木）に、六日市基幹集落センターで行われた藻谷浩介氏の講演会に全校生徒が参加しました。午前中の吉賀高校での講演に続き、午後は町内の中学生を主な対象としたキャリア教育につながるお話でした。

講演会冒頭「島根県内で初めて出来たものが吉賀町にあります。それは何？」という問いから始まりました。生徒はそれぞれに一生懸命考えていましたが、残念ながら正解にはとうとう至りませんでした。実は会場内にいた大人の方にも気がつかれない方もおられたと思います。私は直ぐに気がつきましたが、もう42年も前のことですので私も歳をとったなあ感慨深く思いました。正解は、高速道路とインターチェンジです。六日市ICは1983年3月の中国縦貫道全線開通と共に供用が始まりましたが、当時は島根県内は勿論、広島市や岡山市などにも日本道路公団による高速道路はありませんでしたので、この吉賀町は高速道路網が関西や九州とで最も早くつながった町ということになります。昔私がまだ若い頃に勤務していた時には関西方面や広島方面、九州方面へ六日市ICから自家用車でよく出かけたものだなあと懐かしい思いになりました。

生徒の皆さんは、国内の大都市や諸外国と比較しても、この吉賀町はたくさんの魅力が当たり前に身の回りに溢れていることに、そしてあまりにも当たり前すぎて見逃していたり気がついていなかったりしているふるさと吉賀の良さや素晴らしさに目を向けることができたでしょうか。藻谷さんも言っていましたね。「当たり前」であると思うことの反対は「ありがとう（感謝）」です。自然や環境と共に、皆さんの周囲のここに住む人たちにも「ありがとう」の気持ちで接してみてくださいね。そして、ふるさと吉賀に誇りをもってください。

校外学習に出かけました

10月9日（木）には、全校生徒で宇部市ときわ公園内にある「UBE現代日本彫刻展」（旧称：UBEビエンナーレ）や宇部市石炭記念館を見学してきました。

UBE現代日本彫刻展は、今年3月に「UBEビエンナーレ」から名称が変わった世界で最も長く続いている野外彫刻展としてギネス認定も受けている彫刻展で、吉賀町出身の彫刻家：澄川喜一氏が選考委員や運営委員を務めたことなどのつながりから吉賀町賞も設けられています。作品の中には『吉賀町賞』に選ばれた作品の他数多くの素晴らしい彫刻作品が展示してあります。ビエンナーレ (biennale) はイタリア語で「2年に一度」という意味があり、2年に1回開催される美術展覧会のことを意味しますが、今後は3年に一回の開催とされるようで、名称変更を行ったそうです。

宇部市石炭記念館は、宇部市発展の基盤となった石炭産業を後世に残すために建てられています。当時の石炭採掘道具や機材などは、経済産業省の近代化産業遺産に選ばれています。石炭採掘と共に宇部市は大きく発展しましたが、同時に宇部市民はその煤じん汚染による健康被害と市民生活への支障に大きな問題も起こってきました。宇部市では市議会を始めとした行



政、産業界、学術者、市民が「宇部方式」と呼ばれる煤じん対策委員会を立ち上げ、自分たちの住んでいる地域社会の健康は自分たちで守ろうという自治意識のもとに、煤じん汚染対策への取組を始めました。取組を始めて10年を経て、宇部市は住民が安心して生活できる街へと変わった経緯があります。罰則や公害防止条例を設けることなく成果を出した「宇部方式」による取組や住民意識には、生徒も学んだり気づかされたりすることもあったと思います。「へー、そうなんだ」だけで終わるのではなく、我が事、我が吉賀町では自分たちには何が出来るだろうか何を考えていけばいいのかという意識や考え方を高め深めて欲しいと願っています。

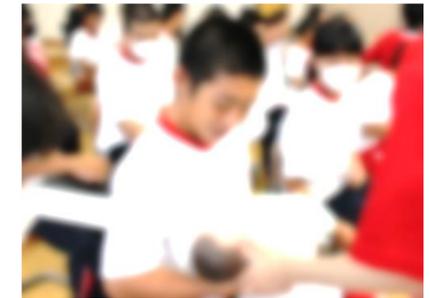
とはいえ、彫刻展や石炭記念館の見学を終えた生徒たちは、隣接する植物館や動物園、遊園地で楽しい時間も過ごしていました。また、ときわ公園内にはアニメ「エヴァンゲリオン」の「ロンギヌスの槍」が刺さっていますので見つけて記念写真を撮った生徒もいました。



一人一人それぞれの命が、待ち望まれて産まれて来た大切な命であり今日までそしてこれからも大切に育まれていることを知り、命の大切さと自分は何をしていくべきなのかを考えることができたと思います。今回の学びをしっかりとこれから活かしていきましょう。

今日、いのちの楽習を受けて、前よりも命を大切にしようと思いました。私は一億分の一の確率で産まれてきたと思うとすごいと思いました。それに命を大切にするためによく食べて、よく寝て、たくさん話をしたいです。いのちの楽習で普段学べないことも学べたので勉強になりました。今日学んだことを忘れずにしたいです。そして自分の誕生日も大切にしたいです。

今回聞きたいのちの楽習では、初めは妊婦さんの話でした。お母さんから産まれた後の話はよく聞いていましたが、産まれる前の話は聞いたことがなかったので、ものすごく勉強になりました。この学習で性行為やいろいろなことも分かりました。この話で「みんな違ってみんないい」が再認識できてよかったです。



いのちの楽習をしました

10月16日(木)に、「バースデイプロジェクト～いのちの楽習～」を

- ・妊娠から出産までの過程を知り、命の大切さを学ぶとともに、たくさんの人に支えられていることを知って感謝の気持ちを持つ。
- ・思春期の心と体の変化など性と生について正しい知識を持ち、理解する。
- ・思いやりを持ち、自分も他者も大切にできるような人との関わり方を考える機会にする。

をねらいとして、島根県助産師会から新田昌子さんと小谷佳寿美さんをお呼びして全校生徒が学びました。

人の命がどのように誕生し育まれ生長していくのかという説明を聞いたり、赤ちゃんの重さや大きさを赤ちゃん人形を抱っこしたりして一人一人が考え実感しました。



1億の中の1つの命ということを知りびっくりしました。1つ1つの命がどれだけすごいかを実感することができました。お腹の中にいる赤ちゃんは羊水を飲んで、それを尿にして出して、またその羊水を使う事をくりかえすことを初めて知ることができました。びっくりしました。はじめは小さな点くらいの大きさから10カ月もお腹の中で育て、産まれて14年間も育ててくれた親に感謝をしながら命を大切に生きていきたいです。

性のことで知っていることもあったし、初めて聞いたこともあって私たちは一億分の一ということが初めて知れたので良かったです。妊婦さんはどれだけ大変なのか分かったし、妊婦さんが困っていたら自分から駆けつけて助けに行こうと思いました。いのちの楽習を通してお母さんに感謝をしようと思ったし、成長には個人差があることを知ることができてよかったです。

『起きて半畳、寝て一畳』

朝晩が冷え込んできました。日によっては初冬を思わせるくらいに肌寒さを感じるこの頃で、秋の深まりと冬の足音が聞こえるようですね。学校周辺の木々の葉にも黄色い色が目立ち始めましたし、樹木によっては毎日たくさんの落葉の見られるものもあります。



これらの葉の落ちた木々を見ていると思い出す言葉があります。それは「起きて半畳、寝て一畳」です。

どんなに広い家に住んでいても、人間が座っているには半畳あれば十分だし、寝るのにも一畳あれば十分なんですよ。人間の際限のない物欲を戒める言葉ですが、私は中学生の頃からこの言葉を「どんなに財力があっても着飾っても、どんなに権力を持って力を振りかざしても、所詮人間である限り、誰もが半畳と一畳。素の一人一人に大きな差があるわけではない。だから見せかけや脚色に惑わされることなく素の自分を見失わず大切にしたい。」ととらえて今も大事にしています。素の自分になったときに自分に残っているものは果たして何でしょう。装いや飾りはずしたときに最後に自分に残るものは、自分の内面にもっている自分らしさ。それは、優しさ、信頼、頼もしさ、誠実さ、たくましさなどいろいろあると思いますが、自分を着飾ったり身の回りにつけた鎧を厚くしたりするのではなく、自分の内面を豊かに美しく磨いていくことが大切なのだと考えています。

♪ 自分を強く見せたり 自分をうまく見せたり
 どうして僕らはこんなに 息苦しい生き方選ぶの？
 目深にかぶった帽子を 今日外してみようよ
 少し乱れたその髪も 可愛くてぼくは好きだよ ♪



これは歌手の平井堅さんの「LIFE is... ～another story～」という曲の歌詞の一部です(20年くらい前になりますが、TVドラマ「ブラックジャックによろしく」の主題歌(私はドラマは見ませんが)として流れていました)。春に花の咲く樹木は、夏～秋の間に葉で作った栄養やエネルギーを葉の散った後も木の内部である幹や根に溜め込んで冬をしのいだのち、やがて冬の後に来る次の春にその栄養やエネルギーを使ってきれいな花を咲かせます。外からは見えない内面に、栄養やエネルギーをたくさん溜め込んでいる葉の散った幹と枝しかない木々を見ながら、いつもこの曲を口ずさんでいるところです。